

うちの近所 コレイチ

わが町 自慢紹介 70



2019年2月下旬まで毎日運航しています



大阪湾をつなぐ サイクル・ツーリズム

いた旅客船の定期航路の復活に向けた取り組みとして、昨年度につづき「船旅活性化モデル地区」を活用し、7月1日から約8か月間、岬町の深日港と洲本市の洲本港を結ぶ旅客船運航を実施しています。

岬町から淡路島へ サイクルリングも

1日4往復。淡路島へは明石海峡を渡る船でのみ可能だった自転車での入島ですが、期間中は、サイクルリングする人も、一般の人も、大変便利でリーズナブルに淡路島へ渡ることができます。この秋、大阪府の最南端の町から淡路島へ渡り、サイクルリングや小旅行はどうでしょうか。



深日港より乗船するサイクルリスト

運航ダイヤ、乗船予約、チケットの購入方法等詳細については、深日洲本ライナー予約サイトでご確認ください。

大阪府内最南端のまち岬町にある深日港は、かつて、四国や淡路島を結ぶ港として賑わいをみせていましたが、1999年に深日港と洲本港を結ぶ高速艇航路が廃止され、すべての定期航路がなくなりました。それに伴い、まちの中心として栄えた深日港周辺は賑わいをなくしてしまいました。

広域交流促進と 地域活性化めざして

岬町と兵庫県洲本市が、両市町を中心とした広域交流の促進と地域の活性化を図るため、かつて結ばれて



「散り椿」

映像美と殺陣が見ものの時代劇です。ストーリーも時代劇では定番の藩主を巡るお家騒動。それに題名の椿をめぐる人たちの哀歓を描きます。藩の不祥事を追及し故郷を追われた瓜生新兵衛は、妻と二人で寺に身を寄せていました。病気を患う妻は散り椿を眺めながら、故郷の散り椿がもう一度見たいといいます。しかしその願いは叶うことなく、死の直前、新兵衛に故郷に戻ってほしいと言いつつ、残し亡くなります。妻の言う通り故郷の藩に戻った新兵衛に、家老の魔の手がのびます。かつてのお家騒動の真相は…。故郷の美しい景色

映像美と殺陣が見ものの時代劇

がスクリーンに広がります。新兵衛と剣の友人だった榎原采女との対決シーンが圧巻です。リアルな殺陣の場面は、黒澤明の作品をほうふっさせます。それもそのはずで、木村大監督は長く黒澤明の撮影助手をつとめた実績の人です。原作は2012年に「鯛(ひぐらし)ノ記」で直木賞を受賞した葉室麟の同名時代小説です。新兵衛と榎原采女を演じた岡田准一と西島秀俊の鬼気迫る対決をじっくりとどうぞ。新兵衛の妻役の麻生久美子の匂い立つ色気、奥田瑛二の悪家老ぶりも見ものです。上映時間は1時間51分。

16th Anniversary

作りませんか



ラタトゥイユ

交野市職労 国武 裕次さん

協力：現業評議会・給食部会

野菜の旨味がたっぷり！
彩りも鮮やか



材料(4人分)

ベーコン40g、茄子60g、ズッキーニ40g、たまねぎ60g、かぼちゃ80g、トマト水煮40g、にんにく0.4g、オリーブ油4g、塩2g、こしょう0.04g、ローリエ0.08g

作り方

- ①ベーコンは8ミリ幅に切り、茄子とズッキーニは8ミリ幅の半月切りにする。
- ②玉ねぎは20ミリ×10ミリ幅のサイノ目切りに、カボチャは28ミリ×28ミリの角切り、トマト水煮も10ミリ×10ミリの角切りにし、ニンニクはすりおろす。
- ③オリーブ油を熱し、にんにくを炒める。
- ④ベーコン・たまねぎ・ズッキーニ・かぼちゃ・茄子の順に加え炒める。
- ⑤トマト水煮を汁ごとに加え、塩・こしょう・ローリエを入れ、フタをして弱火でコトコト煮込む。
夏野菜を炒めて煮込む南フランスの郷土料理。南仏ニースの潮風香る、ちょっぴり酸味のきいた大人の味です。

心に響くひとこと

うちなーんちゅ
うしえーていないびらんどー
(沖縄人をないがしろにははいけませんよ)
翁長 雄志 前沖縄県知事(1950年~2018年)

2015年5月17日に開催された沖縄県民大会での言葉です。この言葉のターゲットは、米国政府であり、日本政府・国会であり、世論です。沖縄タイムスの読者が選ぶ「沖縄版・流行語大賞2015」に選ばれ、県民のアイデンティティを象徴する言葉となりました。翁長氏は保守の政治家として、沖縄の政治家として歩んできました。今年の沖縄慰霊の日には「辺野古に新基地を造らせないという私の決意は県民とともにあり、みじんも揺らぐことはない」と強調しました。

今月の 記念日

「貧困撲滅のための
国際デー」
10月17日

フランスを拠点にした「国際運動ATD第四世界」を創設したヨゼフ・レシンスキが「極貧生活を余儀なくされる人々がいるということは、人権侵害が存在するということの証です。今こそ皆が一体となって、人権が守られる社会を作ることが、我々の重要な責務である」とよびかけ、1987年のこの日、貧困、飢え、暴力、恐怖の犠牲者に敬意を表するため10万人がフランス・パリのシャイヨ宮の人権広場に集まりました。1999年12月の国連総会において、多くの国で10月17日が「極貧に打ち克つための世界デー」となっていることから定められました。